

4. 連携・連帯でつくるまちづくり

『お宝再発見』事業で～地域の一体感を高め合おう～

～キタクなる新琴似『お宝再発見』事業の取り組み～

新琴似地区コミュニティネットワーク会議

事務局長（新琴似連合町内会総務部長）

よしだ

ただし

吉田

正

【はじめに】

平成24年度新琴似地区では、「エコでん・ウィーク」事業を行い節電に取り組み、地域の関心を高めることができた。これを契機に、まちの活性化に向けた取り組みを一層進化拡充させていきたいという願いにたって、平成25～26年度、地域の「お宝さがし」で自分たちが居住している地域の良さを再認識してもらうということで、新たなテーマのもとに取り組みを始めた。

【事業内容とスケジュール】

(1) 事業テーマ

- 今回のテーマは、子どもから高齢者まで誰もがわかりやすく、取り組みやすい「地域のお宝発見」とした。

(2) ねらい

- 地域の資産である様々なお宝を発見してもらい、応募結果を集約し、次世代に残す宝物を報告会・製本化を通して発信し、地域への愛着・連帯感を醸成し、「地域の一体感」を高める。
- お宝の場所に行ってみたいという探究心を掘り起こすことでまちの活性化を高め、明るい地域づくりを目指す。

(3) お宝応募発見のアイデア募集

- 事業の内容を具体化するため、25年度は21団体による全体会議を3回、実行委員会を4回、地域の若手グループとのワークショップを2回開催し、応募用紙の内容と集約方法・活用の仕方等を話し合った。

- ① 応募用紙のチェックポイントは4つ、(歴史、環境、美味しいお店、優れた技術を持つお店・人)でどれか1つに該当すると思われるところを1人1か所選んで応募してもらい、お宝に選んだエピソードを書いてもらい、応募者の中から抽選で記念品を贈呈する。
- ② 応募用紙の他に写真をつけて応募した人には、フォトコンテストを行い、入賞者には記念品を贈呈する。
- ③ 集約したお宝については、「ミシュランガイド」のようにまとめ、新琴似の魅力を広める冊子とする。

(4) 応募用紙の配布と回収

- ① 応募用紙は両面とし、事業の目的と回収場所を明記し、お宝のチェックポイントや選んだ理由・エピソード、氏名・住所のほか、事業の感想・気づいたこと等を書き込む欄を設けた。
- ② 配布は、連合町内会の地域15,000世帯に町内会の全面的な協力のもと全戸配布で行われた。また、連町の機関誌である「新琴似新聞」へ記事の掲載を依頼し、地域住民への周知を図った。広く応募を呼びかけるため、管内小中学校や児童会館、保育園等関係機関にも配布を行った。
- ③ 応募期間は、平成25年10月15日(火)～11月30日(土)。期間を過ぎても応募の問い合わせがあり、最終的に平成26年1月末を受付期間とした。



④ 応募用紙の回収

町内会毎に写真を入れる「フォト袋」と応募用紙の「回収袋」の回収を依頼し、回収ボックスを地域の南・北・西会館、四番通事務所、長生会館、新琴似・新川地区センター、プラザ新琴似の7か所に設置し、回収を行った。応募総数は写真が21件、応募用紙が235件で、新琴似緑・新琴似北小学校から2校併せて140件の児童が応募してくれた。

⑤ 集約結果

写真を添付して応募した21名はフォトコンテストを開催し、10名の入賞(フォト賞)者を決定。その他の応募者から特別賞1名、感謝賞2校(新琴似緑・北小学校)、抽選で応募賞65名を表彰することとし、景品について、フォト賞は商品券、特別賞はグルメカード、感謝賞・応募賞は図書カードとした。

【報告会】

平成26年6月21日(土)10:30からプラザ新琴似大ホールで行われ、地域住民約60名が集まった。



集約結果の説明では

- 4つのポイント別では環境が89票と多く、その中でも①屯田防風林が4割を占め、②安春川、③JR高架遊歩道、④オオウバ百合群生地が自然を楽しめるスポットとして、挙げられていた。
- 次に多かったのが飲食店で、人気が高かったのが、①神野喫茶店、②うちパン、③タケダ製菓(せんべい)、④ミート館かやね等、味のみでなく、接客や安心・安全性が評価されていた。
- 歴史では、①新琴似神社、②新琴似屯田兵中隊本部、③新琴似歌舞伎、④新琴似音頭、⑤新琴似大根等、いずれも新琴似の歩みを踏まえた「誇れる宝」としてエピソードが記載されていた。
- 事業への意見・感想としては、「新琴似が開拓された時代背景を学び、行動することは新琴似の発展につながる」「自分の暮らす新琴似を見つめ直すよいきっかけづくりで愛着を感じた」等、地域のまちづくりの活性化に参考となる意見が記載されていた。

集約結果の報告の後に応募者への表彰があり、感謝賞を校長先生とともに受け取った新琴似緑小・新琴似北小の児童からお礼の言葉があった。



出席者からは次のようなコメントをいただいた。

【北区市民部 石山市民部長】

今回技術が誇れる所として、地域住民でなければ知らない場所がクローズアップされているのも地域の人が誇りに思う財産だと思います。今後、集約結果が製本化されてまちづくりの活性化に活かされることを区としても期待したいと思います。

【新琴似緑小学校長 川北俊哉先生】

新琴似「お宝再発見事業」に参加した子どもたちからは、今まで知らなかった新琴似のお店を調べて楽しかったという感想が聞かれました。今後もぜひ参加させてもらい、故郷を愛する心を育ててほしいと思います。

【新琴似北小学校6学年担任 小西正一郎先生】

この事業は、地域の宝「防風林」のことを真剣に考えるきっかけになり、巣箱かけやゴミ調査などの活動をする「ふるさとタイム」の学習で、環境を守り・育てるという「地域愛」の意識を、先輩や後輩に伝えていきます。

【おわりに】

平成25年度は「お宝」の募集と集約、平成26年度は集約結果の報告と製本化に向けて取り組んできた。

これらを通して、新琴似の魅力、伝統、考え方を知り、地域への愛着を一層深めてほしいと願っている。同時に、町内会、文化振興会、老人クラブなどの各種関係機関の担い手、商店街活性化にもつなげ、「明るく、住みよいまちづくり」を更に進めていく指針としたい。

○お問い合わせ

新琴似まちづくりセンター

TEL.011-761-4205